

ありがとうメッセージ

・日用品の提供、いつもありがとうございます！ご寄附いただいた品物については、作業時間にて値付け等を行い、福祉の店にて販売しています。

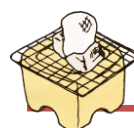
たんぽぽ掲示

“理事長のひとりごと”が本になりました！

絶賛発売中！

ご購入、お問い合わせについてはたんぽぽまでご連絡下さい！
たんぽぽ各移動販売先でもご購入いただけます。(本体1000円)

ご連絡先：TEL/FAX 0877-22-2840



年始のご挨拶

皆さん、いつもお世話になっております。たんぽぽです。皆さんはお正月、どのように過ごされましたか？昨年はとても変化がある一年でした。新しい人たちと、新しいスタッフが丸となり、とても早い変化のある一年でした。新しい場所での販売、クッキー配達などとても賑やかになりました。たんぽぽの皆さんお疲れ様でした。また、年明けからも、変化のある新しい出会いが皆さんにあれば幸いです。

昨年は、皆で揃って販売に取り組みクッキーの新商品にも力を入れて参りました。

クッキーの製造の人たちは常に変化を求められてきました。新しい商品には、紫イモ、カボチャ、紅茶、バター、クルミなどのクッキーを販売しました。また、製造の人たちは手が冷たいのにクッキーを焼くのに、凍ったクッキーを握りしめ、冷たいクッキーを切っていました。製造担当の皆さん、お疲れ様でした。今年も新商品を皆で作れることを祈っています。販売の人たちは寒い中での販売を寒さに負けず働いています。「カイロがあっても寒いよお〜」思わず目から涙が……。そして、調理クラブの皆さんもお疲れ様でした。今年も調理を一緒に作ろうね！

短い文章ではありますが、挨拶とします。今年もさる年。私は、考え方をずる賢く考えたいと思います。何ちゃって〜。今年もたんぽぽを宜しく願っています。(販売、製造担当者N、M)



クッキーをお買い上げいただいた皆様、本当に有り難うございます。皆様のおかげで、作っていただけるのだと思います。私もたんぽぽのクッキーを作る作業をさせていただいてから、早5年が経とうとしています。その頃のクッキーの種類は、チェリー、ゴマ、よもぎ、市松、渦巻き、ナッツの6種類だったのですが、色々な紆余曲折がありつつ今では、14種類にもなっています。新しい味を作るために試作(試食)を繰り返し、悩みつつ美味しいというものを商品化させていただきました。ミックスの商品も2種類になり、単品の商品も新たに増え、作る方としては結構大変なのですが、同じくらいやりがいもあります。(頼むからこれ以上増やさないでくれ〜)今年もよろしく願っています！(製造担当者K、K)

編集後記

たんぽぽの仕事始めは4日(月)からでした。毎年、仕事始めには地元の神社に行きたい人を募り、初詣に出かけており今年も行ってきました。その中、製造担当者は仕事始めの日から大忙しに委託先、また別注等550個のクッキーを4〜8日で焼いています。幸先よく、たんぽぽはクッキー、販売等今年も大忙しになりそうな予感がします。今年一年も一人一人が人生の主演として、街の中で、たんぽぽで活躍できる一年となるよう努めていきたいと考えています。そのためにスタッフとして一人の人として何をすべきなのか、また、人と人とが繋がる力を信じて今後もたんぽぽらしさを大切にしていきたいと思います。皆さん、今年もたんぽぽを宜しく願っています。



Life

第57号 2016. 1. 14 発行
特定非営利活動法人SAJA
就労継続支援B型事業所 たんぽぽ
〒763-0066
丸亀市天満町1-2-31
TEL:0877-22-2840
HP <http://nposaja>

今年も宜しく願っています 2016年のスタートにあたって



NPO法人サヤ
理事長 西谷 清美

明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

2016年のスタートにあたり、今年一年を通じて、NPO法人サヤが重視したい3つの事柄について述べてみたいと思います。

まず1つめに、基本的人権は多数決に勝つという信念です。民主主義のルールでは、多数決によってその議を決るとされていますが、それでもなお、基本的人権を優先するという考え方を採用したいと思います。時に私達は、障がいを持つ人々の住まいや就業、地域生活、対人交流等への支援策に対して全く異なる見解を持つことから、賛否を問うてその進め方や方向性を決めようとしています。ここで用いられるのが多数決という手法です。最近では、子育て支援策や高齢者の地域支援策をはじめ、障害者の居住支援策、とりわけ精神障害者の長期入院の解消と地域移行等に関して、専門家や支援者の間でその進め方を巡る議論が多数決によって決着しています。果たして多数決の結果は、精神障害者の基本的人権を尊重する内容だったでしょうか。さらに、精神障害者本人やその家族の声(当事者の意見)は多数決に反映されていたでしょうか。私自身は、多数決による結審が、そのまま障がい者の基本的人権の尊重に直結しているとは考えにくいという実感を持っています。NPO法人サヤは、あくまでも基本的人権の尊重を最優先に地域活動を展開していきたいと考えます。

2つめに、差別解消の基本は対話であるとする考え方です。差別は「知らない」「分からない」「分類できない」等々、差別をする側の都合(理解できない/怖い/悪い噂等の先入観、その他)で起こります。差別の種類には、人種差別、性差別、障がい者差別等がありますが、これらの差別を解消するためには対話が極めて重要です。具体的には、他者とオープンな関係を作りお互いを知り合い、その違いを尊重し合う、認め合うことが大切だということです。因みにその逆は、「無視する」「関心を持たない」「避ける」「一方的に言い聞かせる」「排除する」等で、こうなるとは地域住民との連帯や共同を通して障がい者福祉を実践することは不可能です。地域の中で顔の見える関係、声の届くキョリ、日々のふれあい、それらを通して知ってもらうことが差別解消につながると考えます。

最後の3つめは、権威的沈黙に甘んじないということです。次の問答の例から権威的沈黙が見えてきます。

支援者：「精神障害者も私達と同じ市民です。」

障がい者：「じゃあ何故私達を長年施設や病院に放置したんだ。」

支援者：「知らなかったんです。」

障がい者：「では早く先進国並みにベッド数を減らして、地域で支援してください。」

支援者：「まずは居住型施設やケア施設を増やします。」

障がい者：「私達はあなたと同じ市民ではないのか。」

支援者：「……………(権威的沈黙)」

権威的沈黙は種々様々な形態をとります。無視であったり、逃避であったり、時にはぐらかしや居直りであったりします。自己決定を尊重すると言いながら、実際は支援者がコントロールしていたり、其処ら中に看板だけの「権利擁護」が建てられています。これはNPO法人サヤが目指す地域福祉実践ではありません。私達は、権威的沈黙に甘んじることなく、社会福祉の原点に立ち返り、常に自らを問い、自らを律することを忘れない、そんな実践を展開していかなければなりません。

関係者ならびに地域の皆様におかれましては、本年もご支援、ご協力のほど、何卒よろしく願っています。





2015年度

NPO 法人サヤ 地域生活支援関係職員研修会報告

テーマ

『あなたからの贈り物』



去る12月19日(土)に地域生活支援関係職員研修会を開催しました。毎年1回当法人主催で行っているものですが、今年度は『あなたからの贈り物』をテーマに講演会、シンポジウムの構成でとり行いました。講演会では作家で元特別支援学校教諭の山元加津子氏より「あなたからの贈り物」と題してお話があり、シンポジウムでは「なぜここにいるの?」と題して児童デイサービス NPO 法人手と手と手の大西照子氏、保護者の横田ゆかり氏、特別支援学校教諭の平井菜穂美氏が登壇し、日頃の目の前にいる子どもたちとのかかわりや今の想いについてのお話がありました。

話にあったのは、障害の分野は異なっても根底にあるものは全く同じで「誰もが価値ある大切な存在」だということです。ドキュメンタリー映画の「1/4の奇跡〜本当のことだから〜」ではそのことが解りやすく描かれていますし、この映画は全国1000ヶ所以上、海外15か国以上で自主上映会が開催されています。障害をどうとらえるのかということを考えさせられる内容となっています。書籍(DVD付)も発売されていますので是非一度ご覧になってくだされば幸いです。

講演会では多くのことを学びました。一方通行ではない互いに支えられる関係、目の前の人に向き合う真摯な姿勢がなければ本当に大切なことや深い想いは見えない、常識はそのままでなく今常識であることが今後ずっと同じとは限らないこと等です。それと同時にやはり自分は限定的な枠の中で支援をしていることを改めて思い知り、何ができるのかを考える機会となりました。シンポジウムでも、それぞれ違う立場からの発言でしたが、多くの言葉や内容が印象に残りました。かかわり合うとかかわるは違うこと、かかわり合える状況をつくることも大切だということ、またお母さんという立場からの貴重なお話、更に目の前の人から学ぶという謙虚な気持ちを持つ方がお互いに楽しくなること等は、日々の活動に追われ忘れがちになっていたことだと感じています。かかわり合うことは前提でありそれを超えて何かが変わる、主役になる仕組みが必要ということ、研修会全体を通して山元氏が表現されている「本当に大切なこと」をそれぞれが考える機会となりました。

最後に山元氏の著書『大切な花を心にひとつ』より

「私はこう考えます。幸せとは、与えられたありのままの自分を大事に思い、出会った人と対等の関係で向き合いながら、自分にも相手にも誠実に、一生懸命に前を向いて生きていくことだと。たとえつらく悲しい中に今あっても、時間はいつも見方をしてくれる。大切な花を思う心があれば大丈夫。」
年末のお忙しいなかご登壇くださった講師の方々へ感謝致します。ありがとうございました。



バザー 出店報告!



昨年の10月から12月にかけての販売の報告です。

10月24日には、アイレックス丸亀にて開催された「第32回香川県就学前人権教育研究集会」に、メンバー1名、スタッフ1名、実習生1名にて販売に行きました。懇意にいただいている香川県隣保館連絡協議会の職員の方からお声をいただき、販売をさせていただきました。関係者のご協力もあり、多くの方にクッキーを購入して頂くことができました。

10月25日には、城坤小学校にて開催された「城坤祭り」にメンバー4名、スタッフ2名で販売に行きました。このうえない秋のバザー日和で沢山の来客が来店しました。クッキーや雑貨に加え、輪投げ、駄菓子、みかん等の販売も行い、どれもとても好評でした。駄菓子屋の常連さんの顔が見えたり地域でいつもお世話になっている方々ともお目にかかることができました。

11月1日には丸亀西中学校にて開催された「城西祭り」にメンバー4名、スタッフ2名にて販売に行きました。滅多にない機会だからと、普段販売を担当することが少ないメンバーも是非担当したいということで、普段の販売とは顔ぶれの違ったメンバーでの販売となりました。

11月16日には、アルファあなぶきホールにて開催された「部落解放第33回香川県講演会」に、メンバー1名、スタッフ1名にて販売に行きました。こちらも香川県隣保館連絡協議会の職員の方からお声をいただき、販売をさせていただきました。普段は丸亀を中心に活動をしており、高松方面での販売機会はほとんどないため、たんぼぼのことで知られる貴重な機会となりました。クッキー、雑貨も多くの方に購入していただき、このような機会がもっとあればと、担当していたメンバーも話していました。

12月5日には、サンポート高松にて開催された「じんけんフェスタ2015」にメンバー2名、スタッフ1名にて販売を行っています。社会就労センターを通しての参加となりました。アンパンマンショー等、様々なイベントが催されており、多くの方が来場していました。試食用のクッキーが足りなくなるほど、たんぼぼのクッキーに興味を持ってくださる方が多く、想像以上の売り上げを出すことができました。販売後、担当していたメンバーはかなり疲れた様子で、「今日はぐっすり眠れそう」と笑いで話していたのが印象的でした。



今年はこれまで以上にたんぼぼの活動を多くの方々に知っていただくこと、また、工賃の向上を目指して、より積極的に販売の機会を増やしていきたいと思います。今年もメンバー、スタッフ丸となって活動していきたいと思います。



クラブハウス in 小豆島

11月28日(土)、たんぼぼクラブハウスにて小豆島へ行ってきました!



<クラブハウス会長より一言!>

クラブハウスの皆さん、今年是小豆島の寒霞渓に行って、皆が無事に帰って来られたので、とても嬉しいです。楽しい小旅行でしたね。今年も小旅行に行けるといいねえ。そしてクラブハウスにも新しいメンバーが増えてとても楽しくなりました。クラブハウスでは副会長が3人もいます。また、新しい規約を一緒に考えようね、三宅さん!

